

-Index-

地域支援の申し込みについて  
令和5年度 地域支援報告  
知っておきたい！補聴援助システムのキホン②



聴覚障がい教育支援情報紙

## 創刊 30 年目「みみネット」

大阪府立中央聴覚支援学校〈聴覚支援センター〉では、地域の学校園の先生方に向けて、聴覚障がい教育に関する情報紙「みみネット」を月1回発行しています。大阪市立学校園にメール配信するとともに、大阪府立学校園にも案内を送信しています。ぜひ、ご活用ください！

「みみネット」は、本校ホームページから閲覧可能です。  
<https://www2.osaka-c.ed.jp/osakachuo-c-s/>



 大阪府立中央聴覚支援学校  
~Chuo School for the Deaf~

| 進学される皆さまへ |      |      |       | 在學生・保護者の皆さまへ |        |      |     | 卒業生・教育実習生の皆さまへ |     |     |      |      |
|-----------|------|------|-------|--------------|--------|------|-----|----------------|-----|-----|------|------|
| ホーム       | 学校案内 | 安全関係 | ① 学校史 | ① 地域支援       | 早期教育相談 | 幼稚園部 | 小学部 | 中学部            | 高等部 | 寄宿舎 | 配付文書 | アクセス |

「地域支援」にカーソルを合わせると、「手話動画」「地域支援」「通級指導教室の概要」「みみネット」のページにアクセスできます！

トップ > 地域支援 > みみネット

### みみネット

令和5年度 ③  
・4月号

- 手話動画
- 地域支援
- 通級指導教室の概要

## 地域支援の申し込みについて

本校では、「きこえ」や「ことば」に関する相談・支援を行っています。聴覚障がい教育の豊かな経験と専門的な知識を持った教員が、それぞれの課題に即した相談・支援に応じます。

### 相談・支援の対象

- ① 聴覚に障がいのある乳幼児・児童・生徒とその保護者
- ② 保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・支援学校の先生

乳幼児期から高校生まで、幅広い発達段階に対応した、相談・支援を行っています！



### 教員研修

本校教員が学校園に訪問し、教員研修や理解授業支援を行います  
(例)「きこえと補聴機器」「きこえにくい子どもへの指導の実際」「擬似難聴体験」など

### 理解授業支援

共同して授業計画を立案し、効果的な指導に結びつくよう相談・支援を行います  
(例)「聴覚障がいのある先生との交流」「きこえにくさの体験」など

### 支援や指導に関する相談

指導の方法、教材作成上の工夫、教室の音環境、情報保障等に関する相談・助言に応じます

### 補聴相談

聴力の測定やことばのききとり評価を行うとともに、補聴器や人工内耳の効果的な活用などについての相談に応じます

### 各種研修会(年間3回)

年3回の研修会を、本校にて実施しています

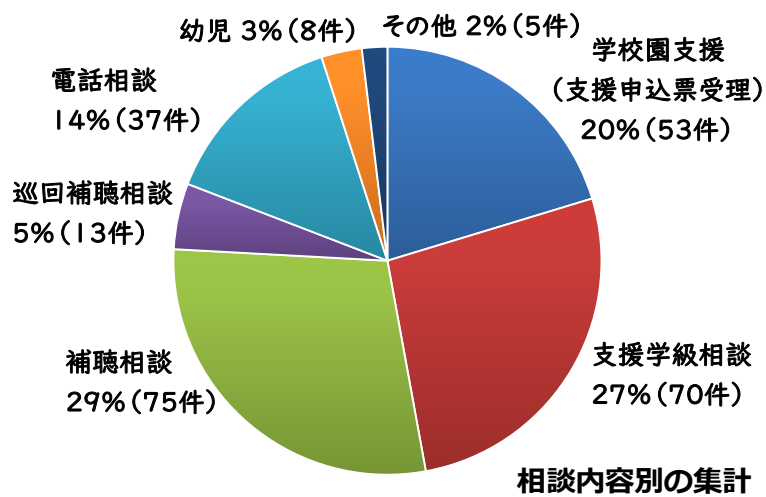
## <申し込み方法>

ご相談は随時受け付けています。本校に支援や相談を依頼される場合には、本校の聴覚支援センターまで、電話またはFAXにて、ご連絡ください。なお、大阪市立の学校園からの依頼は、大阪市「SKIP 書庫」に支援申込票などの必要書類が掲載されています。

聴覚支援センター  
TEL. 080-7008-9463 (支援部専用)  
06-7712-1405 (支援部直通)  
06-6761-1419 (学校代表)  
FAX. 06-6762-1800

## 令和5年度 地域支援報告

今年度、本校が実施した支援総数は、261件でした。昨年度、本校の聴覚支援センターが実施した支援相談の件数について、相談内容別で集計した結果は次のとおりです。



聴覚支援センターでは、小・中学校の支援学級に在籍する児童・生徒の支援として、「支援学級相談」(教育相談)を実施しています。支援学級相談の申し込みがあった大阪市・守口市の小・中学校に対して、希望があれば訪問支援を行っています。

### 支援学級相談

令和5年度は、「支援学級相談」の対象児童・生徒 **34名** (小学生 **23名**、中学生 **11名**) に対し、のべ **45回** の訪問支援を行いました。(訪問支援は、グラフの「学校園支援」の中に含まれます)

## 知っておきたい！補聴援助システムのキホン②

前号では、聴覚障がいのある児童生徒の聴覚的情報保障のひとつである「補聴援助システム」の種類や特徴についてお伝えしました。今号では、活用するときに気をつけるポイントについて、お伝えします。

### 補聴援助システムを使用するときに気をつけること

- ① 他の子どもが発表するときの配慮が必要
- ② 黒板の方を向いたまま話をしない
- ③ 咳払い、大きな声を出すときは注意  
(マイクから離れる、消音設定に切り替える等)
- ④ 衣ずれ音(雑音)が入りやすい衣服の着用を控える
- ⑤ 精密機器のため、水や衝撃に弱い
- ⑥ 視覚的な教材の工夫
- ⑦ その他



#### ①他の子どもが発表するときの配慮が必要

前号でもお伝えしたように、ロジャーやエデュマイク、マルチマイクなどの「補聴援助システム」を活用すると、話し手の声が専用のマイクから直接、補聴器や人工内耳に届けられ、雑音や距離などの影響を、ある程度抑えることができます。このとき、マイクを身につけている人の発言はききとりやすくなりますが、マイクで集音できない他の子どもの発言については、ききとりやすくなることはありません。

マイク以外の周囲の音もきこえるように、補聴器・人工内耳で設定していることもありますが、教員がマイク(送信機)を身につけている場合には、発言する子どもにマイクを渡したり、教員が子どもの発言内容を復唱するようしたりと、状況に合わせて工夫する必要があります。また、グループワークのときには、集まった机の中央にマイクを置くことで、そのグループでの会話がききとりやすくなります。本人のきこえ方や学校の状況に合わせながら、補聴援助システムの活用方法が本人に合っているかどうか、折に触れて確認することが大切です。(次号に続く)

「みみネット」編集部：

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当：中咲、金森  
〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31  
TEL. 06-7712-1405 (支援関係) / 06-6761-1419 (学校代表)  
FAX. 06-6762-1800